

美しい森林づくり

松くい虫被害の北上阻止と多様な森林整備による美しい森づくりに挑戦

盛岡森林管理署

岩手県南部ではシカによる森林被害が深刻化するとともに、松くい虫やナラ枯れ（主に沿岸部）による森林病虫害被害も北上しつつあり、岩手県内の「美しい森づくり」の脅威となっています。盛岡森林管理署管内においては、シカの被害が紫波町で出始め、内陸に

おける松くい虫被害の先端地域が盛岡市の北部にまで及んでいきます。

岩手県のアカマツは、「南部アカマツ」として県の木に指定され、資源量もカラマツの3倍との推計もあります。特に、県北部には健全な南部アカマツ林が広がり、アカマツ材やマツタケの大供給地（それぞれ全国1位と2位）となっているため、松くい虫からの保全とアカマツ資源のさらなる活用が期待されているところです。



6者による協定締結式

このため、盛岡森林管理署としては、平成27年度に松くい虫被害の先端地域の北側に位置し、国道4号線を挟んだ四日市国有林と子抱国有林の未被害アカマツ林を中心に樹種転換を行い、アカマツ林の空白地帯（防除帯）を整備し

マツノザイセンチュウを媒介するマツノマダラカミキリの北への飛翔を止めることを、北上川上流森林計画区の森林計画（平成28年度を始期）で位置づけました。合わせて、森林総研東北支所の研究者のアドバイスを受けつつ、防除帯には一定の広がりが必要であることから、隣接する県有林、私有林、町有林などに理解と協力を得るための働きかけを積極的に何度も行いました。結果的に、森林計画の策定等に関する現地検討会を開催した日の1年後にあたる7月27日岩手町の東北新幹線沼宮内駅ビル「ブリザード」において、岩手県、岩手町、森林総研東北支所、有限会社稲村製材所と当署による「岩手町横断松くい虫防除帯森林整備推進協定」の締結式を開催することができました。

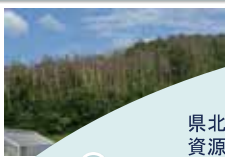
協定の目的は、岩手県北部の「南部アカマツ」資源の保全を図るため、岩手町内の一定幅に団地化した未被害アカマツ林において、協定者が連携、協力しつつ、主として樹種転換等適切な森林整備による防除帯を造成するとともに、防除帯機能を強化するため、防除帯及びその周辺森林において松くい虫被害木の早期発見、早期駆除に努め、松くい虫被害の北上及び拡大を阻止することとしています。

具体的には、樹種転換後の森林整備について、地利、地位の良いところはカラマツを植栽、萌芽更新が期待できる林齢の広葉樹が侵入しているところは、萌芽更新によって広葉樹林に仕立てるなど、モザイク的な多様な森林とします。また、伐採後のカラマツ造林にあたっては、一貫作業やコンテナ苗の活用など低コスト林業にもチャレンジするとともに、防除帯効果、広葉樹の萌芽更新、低コスト造林等については、協定者でもある森林総研東北支所に調査研究して頂くことにしています。さらに、伐採に伴い国有林、民有林合わせて4万㎡以上のアカマツや広葉樹材の利用が可能となりますので、地域の木材需要にも応えることができることに、期待されているアカマツの需要拡大にも繋がればと考えているところです。

協定に基づく具体的な事業実施については、国有林における立木のシステム販売の募集を行うなど緒についたばかりですが、今後も民国連携のもと、多様な森林を整備により松くい虫被害の北上を阻止し、県北部の南部アカマツ資源の循環利用による林業の成長産業化に向けて取り組んでいきます。

★ 美しい森林づくり ★

岩手町横断松くい虫防除帯 森林整備推進協定



県北部の「南部アカマツ」
資源を保全



民国連携協定による防除帯
(アカマツ空白地帯)として
多様な森林を整備

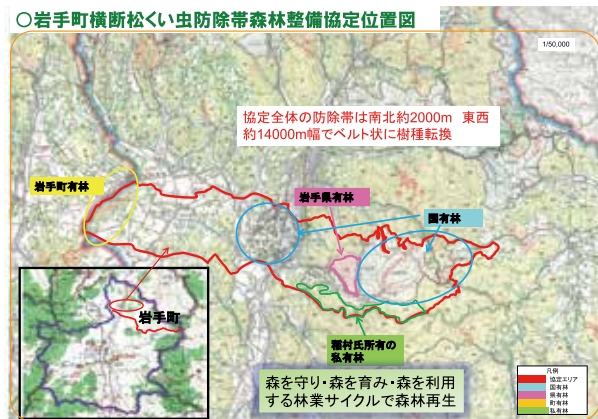
松くい虫被害対策として未被
害アカマツ林の樹種転換



松くい虫被害が拡散する前に！

森林整備協定の目的

○岩手町横断松くい虫防除帯森林整備協定位置図



岩手町を横断する協定の位置図